

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |   |
|--|---|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)   |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜しまず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |                             |  |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |   |  |   |
|----------------|-----------------------------|--|----|------|---|--|---|---|---|---|---|--|---|
| 科目番号           | 授業科目名                       | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |   |
| 16001<br>16002 | 医薬保健学基礎I、II                 | 保健学、およびチーム医療について学び、保健学類の各専攻の内容を理解する。チーム医療における各職種の仕事の役割を理解できるようになる。   | 1  | Q1、2 |   | ○  |   |   |   |   |   |  | ◎ |
| 19002          | 学域GS言語科目I                   | 1. 医学英語論文の記述法を習得する。<br>2. 放射線医学論文の専門用語を習得する。   | 3  | Q3   |   |  |   |   |   | ◎   | ○   |  |   |
| 19007          | 学域GS言語科目II                  | This course is aimed to improve the students' English language skills (speaking, writing, listening) applied to a range of healthcare contexts and situations. | 3  | Q4   |   |  |   |   |   | ◎   | ○   |  |   |
| 45240          | 学域GS科目 データサイエンス応用系科目(医療統計学) | 基礎的な統計量の求め方から出発し、それらを用いていかに統計的に物事の判断を下すのか、その手法を体系的に理解する。また統計ソフトを用いて、実際のデータを解析する方法も学ぶ。  | 3  | Q1   |   | ○  | ○   |   |   | ◎   |   |  |   |
| 23204<br>23205 | 臨床医学入門A・B                   | 1. 医療従事者に必要な臨床医学の概略を理解   | 2  | Q1.2 | ◎   |  |   |   |   | ○   | ○   |  |   |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |   |
|--|---|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)   |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを目指す。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |          |   |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |   |  |
|----------------|----------|---|----|------|---|--|---|---|---|---|---|--|
| 科目番号           | 授業科目名    | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 13203<br>13204 | 生体の構造A・B | 1. 肉眼解剖では、諸臓器の形態、名称、位置関係の理解<br>2. 組織学では、諸臓器の顕微鏡上の構造あるいは細胞の理解<br>3. 各臓器の形態と機能との関連についての理解                     | 2  | Q1,2 | ◎   |  | ○   |   |   | ○   | △   |  |
| 13202          | 生理学      | 1. 人体を構成する器官、組織、細胞が持つ固有の働きや機能がどのような機序で発現するかを分子レベルまで掘り下げて説明できる。<br>2. 各個別の機能がどのように統合されて生体としての活動の恒常性が保たれるかの理解 | 2  | Q1   | ◎   |  |   |   |   | ○   |   |  |
| 33001          | 医用物理学実験  | 研究目的を立て、それを達成するため、いかなる実験を行えばよいか。また、得られたデータはどの程度信頼でき、結果からどのようなことが言えるのか等、研究を行う上で最低限知っておかなければならない基礎的な知識を学ぶ。    | 1  | 前期   |   | ○  | ○   |   |   | ◎   |   |  |
| 23206<br>23207 | 応用数学 A・B | 1. 多変数の微積分では、偏微分、全微分、多重積分の理解<br>2. 微分方程式の基礎では、1階正規形微分方程式の理解   | 1  | Q3,4 |   | ◎  |   | ○   |   |   |   |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |             |  |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|----------------|-------------|--|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名       | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45203          | 生化学         | 1. 生体物質の基本的な構造と働きの理解<br>2. 生体物質の代謝の概要の理解<br>3. 生命現象および代謝病の理解   | 1  | 後期   | ◎   | ○  |   |   |   |   |  |  |
| 45256<br>45257 | 病理学A・B      | 1. 各種病気の病因についての理解<br>2. 肉眼的、顕微鏡的に病変の形態学的変化の理解<br>3. 遺伝子レベルでの病因の理解<br>4. エックス線画像と臓器変化との関連性についての理解<br>5. 血液の生化学検査や生理学的検査と疾病の関連性についての理解 | 2  | Q3.4 | ◎   |  |   |   |   | ○   |  |  |
| 45258<br>45259 | 画像解剖学A・B    | X線撮影やCTなど各種医療画像の正常像を完全に理解し、そこに映し出されている解剖学的構造の名称を熟知し、異常構造も認識できる。  | 2  | Q3.4 | ◎   |  | ○   |   |   |   | ○  |  |
| 45260          | 放射線生物作用学 基礎 | 放射線が照射された際の生体構成分子、細胞、組織及び個体に対する変化を理解する   | 2  | Q3   | ○   | ◎  |   |   | ○   |   |  |  |
| 45261          | 放射線生物作用学 臨床 | 放射線治療における腫瘍組織への効果およびそれを修飾する因子について理解する  | 2  | Q4   | ○   | ◎  |   |   | ○   |   |  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |           |  |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |   |  |
|----------------|-----------|--|----|------|---|--|---|---|---|---|---|--|
| 科目番号           | 授業科目名     | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45262<br>45263 | 放射線腫瘍学A・B | 1. 癌治療の概要を把握し、放射線治療の役割を理解する<br>2. 各部位別の癌及び放射線治療対象疾患についての疫学、解剖、診断、治療、予後、予後因子、有害事象など全般に亘る知識を習得する | 2  | Q3,4 | ◎   |  | ○   |   |   |   | ○   | △  |
| 45264<br>45265 | 放射線物理学A・B | X線の発生、光子と物質との相互作用、荷電粒子と物質との相互作用の学習を通して、臨床で使用されているX線撮影装置や画像検出器の仕組みを物理学的に理解する。                   | 2  | Q1,2 |   | ◎  | ○   | ○   |   | △   |   |  |
| 45266<br>45267 | 医学物理学A・B  | 1. 各種生体イメージングの物理的特性を理解する。<br>2. 各種生体イメージングの撮影および撮像理論と収集した生体情報の意味を習熟し、基礎的理解度を深める。               | 3  | Q3,4 |   |  | ○   | ◎   |   | ○   |   |  |
| 45268<br>45269 | 放射化学A・B   | 原子構造や原子核構造を理解して、不安定同位体の壊変現象について深く理解する。その上で、核医学検査などに用いられる放射性同位元素の作成法や分離法などを放射化学的に理解する。          | 2  | Q1,2 |   | ◎  | ○   | ○   |   | △   |   |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |             |   |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|----------------|-------------|---|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名       | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45213          | 放射化学実験      | ガンマ線やベータ線の計測手法を用いて、放射性同位元素の分離法やジェネレーターについて理解する。                                       | 3  | 後期   |   | ◎  | ◎   | ○   | △   |   |  |  |
| 45270<br>45271 | 放射線画像形成学A・B | アナログおよびデジタルX線画像の形成と解析法の基礎。また医用画像の情報理論の基礎を理解する。  | 2  | Q1,2 |   | ○  | ◎   | ◎   | △   |   |  |  |
| 45215          | 放射線画像形成学実験  | デジタル医用画像に関する実験をとおして、画像形成について理解するとともに、臨床に応用できる最適な医用画像の処理技術を習得する。また実験レポートの基本的な書き方を習得する。 | 2  | 後期   |   | ○  | ◎   | ◎   | △   | ◎   |  |  |
| 45272<br>45273 | 医用情報工学A・B   | デジタル医用画像の生成、処理、解析、および表示、情報科学技術を用いた医療情報システムについて理解する。                                   | 2  | Q3,4 |   | ◎  | ○   | ◎   |   |   |  |  |
| 45274<br>45275 | 放射線画像処理学A・B | 1. 医用画像の特性、医用画像の処理の効果および表示方法について理解する。<br>2. 画像特徴の抽出処理・計測、および画像解析・理解処理による診断支援について理解する。 | 3  | Q3,4 |   | ◎  | ○   | ◎   |   |   |  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム               | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |   |    |        |   |  |   |   |   |   |   |  |
|-------------------------|---|---|----|--------|---|--|---|---|---|---|---|--|
| 科目番号                    | 授業科目名   | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期    | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。 | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45218                   | 放射線画像評価学  | 1. X線画像形成の過程とシステムを理解する。<br>2. 医用画像の情報理論を理解し、その評価法を習得する。   | 3  | Q3     |   | ◎  | ○   | ◎   |   |   |   |  |
| 45220                   | 電気工学実験  | 1. 低抵抗、中抵抗、高抵抗測定<br>2. リアクタンス測定、周波数測定<br>3. 高電圧測定方法<br>4. 基本測定器の取扱<br>5. フィルター回路<br>6. 電気の安全な取扱方法等。   | 3  | 前期     |   | ◎  |   |   |   | △   |   |  |
| 45276<br>45277<br>45278 | 医用電気電子工学I・II・III  | 1. 電磁気学<br>2. 直流ならびに交流回路理論<br>3. 電気計測器の動作原理と電流量<br>4. 医療機器に利用されている電気機器の動作原理等。<br>1. 電子管<br>2. 半導体などの固体素子<br>3. 信号処理技術<br>4. アナログ電子回路<br>5. デジタル回路等。 | 2  | Q1,2,3 |   | ◎  |   | △   |   |   |   |  |
| 45222                   | 医用電子工学実験  | 1. 各種電子素子<br>2. アナログ電子回路<br>3. デジタル回路等。   | 3  | 後期     |   | ◎  |   |   |   | △   |   |  |

|     |  |            |
|-----|--|------------|
| 学域名 |  | 医薬保健学域     |
| 学類名 |  | 保健学類       |
| 専攻名 |  | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |           |   |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|----------------|-----------|---|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名     | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45223          | 診療撮影技術学Ⅰ  | X線撮影の概要と、臨床に必要なX線解剖及び人体骨系の基礎知識を習得する。また、各X線撮影法における原理、画質向上技術を理解する。                        | 2  | Q3   | ◎   | △  | ○   | △   | ○   |   |  | ○  |
| 45224          | 診療撮影技術学Ⅱ  | X線撮影の概要と、臨床に必要なX線解剖及び人体骨系の基礎知識を習得する。また、各X線撮影法における原理、画質向上技術を理解する。                        | 2  | Q4   | ◎   | △  | ○   | △   | ○   |   |  | ○  |
| 45279          | 診療撮影技術学Ⅲ  | X線透視検査法および血管造影検査法の原理および手法を理解する。各種特殊撮影法の原理および手法を理解する。                                    | 3  | Q3   | ○   | ○  | ◎   | ◎   | ○   |   | △  | ○  |
| 45225          | 診療撮影技術学実験 | 1. X線の撮像条件設定の理解<br>2. 頭部、胸部、腹部、脊椎、四肢撮影法の画像解剖や計測の理解<br>3. 画像の鮮鋭度評価の理解<br>4. デジタル画像の取得の理解 | 3  | 後期   | ○   | ○  | ◎   | ◎   | ○   | ○   |  |  |
| 45280<br>45281 | 放射線計測学A・B | 照射線量と吸収線量、線量計の特性、線量計の校正における国家標準との比較校正、放射能強度の決定法、放射能測定の意味、放射能測定とX線測定の違いを理解する。            | 2  | Q3,4 |   | ○  | ◎   | ○   | ○   |   |  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム |           |  |    |     | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|-----------|-----------|--|----|-----|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号      | 授業科目名     | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期 | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45282     | 臨床線量評価学   | 各種放射線検査における放射線測定およびシミュレーションに基づく被ばく線量の評価法、および医療現場における放射線管理に必要な知識および技術を習得する。               | 3  | Q3  |   | ○  | ○   |   | ◎   | ○   |  |  |
| 45283     | 実践安全管理学   | 医療現場における放射線防護および安全管理に関する実践的な知識を習得する。患者への対応及び検査に関する説明、チーム医療および多職種連携、医療情報の取扱いに関する知識や技術を養う。 | 3  | Q4  |   | ○  | ○   | ○   | ◎   |   | ◎  | ◎  |
| 45228     | 放射線計測学実験Ⅰ | 放射線計測学で学習した放射線の計測法を実際の装置を用いて習得する。基礎知識と実践とを融合させるため、放射線技術学の理論に基づいた応用および発展を習得する。            | 3  | 前期  |   | ○  | ○   |   | ◎   | ○   |  |  |
| 48229     | 放射線計測学実験Ⅱ | 放射線測定器の原理を理解するための基礎実験を通して、ガンマ線やベータ線の測定手法を学び、放射能を定量できるようになる。                              | 3  | 後期  |   | ◎  | ◎   | ○   |   | △   |  |  |



|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |             |  |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|----------------|-------------|--|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名       | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45284<br>45285 | 放射性薬品学A・B   | 1. 医療用核種の特性を理解し、その医薬品への応用に関する条件を把握する。<br>2. ラジオアッセイ法の測定原理と応用法を理解する。<br>3. インビボ放射性医薬品の診断・治療機序を生理機能と関連して具体的に理解する。                | 2  | Q3.4 |   | ○  | ◎   |   |   | ○   |  |  |
| 45286<br>45287 | 放射線関係法規A・B  | 1. 放射線診療業務及び放射線管理に必要な法令の体系を理解する。<br>2. 診療放射線技師法、放射性同位元素等規制法、医療法、労働安全衛生法などを習得する。<br>3. 診療に付随する放射線や放射性同位元素取り扱いの規制を理解し、適切な実践力を養う。 | 3  | Q1.2 |   | ○  |   |   | ◎   |   | △  |  |
| 45288<br>45289 | 放射線衛生管理学A・B | 放射線管理に必要な放射線の量と単位・線量限度、放射線のリスク、放射線を利用する際の適切な管理を実践する判断力を養う。   | 3  | Q1.2 | ○   | ○  |   |   | ◎   |   | △  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |            |   |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|----------------|------------|---|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名      | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45233          | 放射線衛生管理学実験 | 診療業務に付随する放射線管理に必要な器具や測定器の取り扱い及び測定法、汚染防止や被曝軽減の工夫のポイント、放射線管理に必要な自主的な判断力を養成する。                                   | 3  | 後期   |   | ○  | ◎   |   | ◎   |   | △  |  |
| 45290<br>45291 | 放射線機器学A・B  | 放射線装置及び附属機器について、構造、原理、機能と特性、規格等を理解し、基本技術および応用技術による性能検査法、機器安全管理による保守と日常管理について習得する。                             | 2  | Q1,2 |   | ○  | ◎   | ○   | ○   |   |  |  |
| 45292<br>45293 | 核医学機器学A・B  | 1. 核医学検査で使用される各装置の構造、動作原理、特性などを理解<br>2. 性能試験なども含め、臨床現場における保守管理のための基礎知識を修得<br>3. 日常の検査における画像処理、データ処理法の基礎的原理を理解 | 2  | Q3,4 |   | ○  | ◎   | ○   | ○   |   |  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |                |  |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |   |  |
|----------------|----------------|--|----|------|---|--|---|---|---|---|---|--|
| 科目番号           | 授業科目名          | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45294<br>45295 | 高精度放射線治療機器学A・B | 1. 高エネルギー放射線を用いた外部放射線治療技術について理解する<br>2. 密封小線源を用いた放射線治療技術を理解する<br>3. それら放射線を用いた治療技術の臨床応用に関する知識を習得する   | 3  | Q1,2 |   |  | ◎   |   | ○   | ○   |   |  |
| 45238          | 放射線機器学実験 I     | 1. 放射線診断機器の評価・解析法を修得する。<br>2. 放射線診断機器の構造や撮影条件の画像効果を習熟する。<br>3. 放射線機器学領域における実験データのまとめ方を修得する。  | 2  | 後期   |   | △  | ◎   | ◎   |   | ○   |   |  |
| 45239          | 放射線機器学実験 II    | 1. 腹部臓器、甲状腺、心臓の超音波検査法と得られる画像情報の正確な理解<br>2. カラードプラ超音波検査法の原理と得られる情報を理解<br>3. 眼底検査法と眼底の解剖構造の理解<br>4. 核医学の心機能、腎機能の解析法とデータ処理法の理解<br>5. 心電計や血圧計の原理とその臨床情報の理解 | 3  | 前期   |   |  | ◎   | ◎   | ○   | ○   | ○   |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |                |  |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |  |  |
|----------------|----------------|--|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名          | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |  |  |
| 45296<br>45927 | X線CT技術学A・B     | X線CTの原理、再構成技術の基礎を理解し、撮影技術を習得するとともに、臨床的に有効なCTの利用法を習得する。   | 3  | Q1.2 | ○   | ○  | ◎   | ◎   | △   |   |  |  |  |  |
| 45298<br>45299 | MRI技術学A・B      | 1. MRIの信号収集と画像構築の原理を理解する。<br>2. 各種撮像法の臨床利用について習熟する。<br>3. 装置管理および安全管理について習得する。                               | 3  | Q1.2 |   |  | ○   | ◎   | ○   |   | ○  |  |  |  |
| 45601<br>45602 | 核医学検査技術学A・B    | 1. 検査法の原理の理解<br>2. 放射性医薬品の種類、性質、特徴の理解<br>3. 核医学検査の臨床的意義の理解<br>4. 各臓器ごとの画像処理法の理解<br>5. 核医学に特異的な定量解析、データ処理法の理解 | 3  | Q1.2 |   | ○  | ◎   | ○   | ○   |   |  |  |  |  |
| 45603<br>45604 | 高エネルギー治療技術学A・B | 高エネルギー放射線を用いた治療技術について、外部照射、密封小線源治療の基礎知識と臨床応用に関する基本知識を習得する。   | 3  | Q3.4 |   |  | ◎   |   | ○   |   | ○  | △  |  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |  |
|--|--|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを旨とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |   |    |      |   |  |   |   |   |   |   |  |
|----------------|---|---|----|------|---|--|---|---|---|---|---|--|
| 科目番号           | 授業科目名   | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。 | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45605<br>45606 | 超音波検査技術学A・B   | 1. 超音波装置の構造と動作原理を理解する。<br>2. 超音波画像の形成について理解する。<br>3. 各種超音波画像やアーチファクトについての知識を習得する。                                     | 3  | Q1,2 |   | ○  | ◎   | ○   |   |   |   |  |
| 45607          | 医療安全学   | 1. 医療事故や院内感染の発生原因とその対応<br>2. 救急救命対応の知識や技術<br>3. 一般的な医療安全<br>4. 診療放射線技師に係る患者急変対応<br>5. 放射線機器を含む医療機器及び造影剤を含む医薬品に関わる安全管理 | 3  | Q4   |   | ○  | ○   |   | ◎   |   | ○   | ○  |
| 45608          | 実践臨床技術学   | 1. 患者への対応及び検査に関わる説明や医療情報の取扱いについて<br>2. 血管ルート確保の手技や抜針及び止血の手技の知識および実技<br>3. 肛門へのカテーテル挿入からの造影剤及び空気注入の手技の知識および実技          | 3  | Q4   | ○   |  |   |   | ○   |   | ◎   | ◎  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医薬保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |   |
|--|---|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)   |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを目指す。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム      |             |   |    |      | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |   |   |   |   |  |  |
|----------------|-------------|---|----|------|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号           | 授業科目名       | 学生の学習目標   | 学年 | 開講期  | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。   | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45609          | 臨床実習        | <p>1. 医療現場における放射線診療の役割</p> <p>2. 実地における各種放射線検査や治療の方法</p> <p>3. 放射線診療を受ける患者への対応の仕方の理解</p> <p>4. CT検査、MRI検査、超音波検査、核医学検査や血管造影検査方法の理解</p> <p>5. 検査の流れの中で如何に対応するかを習得</p> <p>6. 特殊撮影の検査法の理解</p> | 4  | 通年   |   |  | ○   |   | ○   |   | ◎  | ◎  |
| 45248          | 卒業研究        | <p>1. 各研究テーマに基づいて、思考力、理解力、判断力、忍耐力、およびそれぞれの結論を導き出す能力を修得</p>  | 4  | 通年   |   | △  | ◎   |   | ○   | ◎   |  |  |
| 45610<br>45611 | 核医学検査情報学A・B | <p>1. 臨床現場における核医学検査の意義および各検査の適応、特徴の理解</p> <p>2. 正常像と病的状態における形態的ならびに機能的変化についての理解</p> <p>3. 最新の知見、画像解析法、データ処理法の習得</p>   | 3  | Q1.2 | ○   |  | ○   | ○   |   |   | ◎  |  |

|     |            |
|-----|------------|
| 学域名 | 医業保健学域     |
| 学類名 | 保健学類       |
| 専攻名 | 診療放射線技術学専攻 |

|  |   |
|--|---|
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)  | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)   |
| <p>1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</p> <p>2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</p> <p>3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</p> <p>4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。</p> <p>以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</p> | <p>・診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。</p> <p>・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを目指す。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p> |

|   |
|---|
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針)   |
| <p>初年度では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。</p> |

| 専攻のカリキュラム | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) |  |    |     |   |  |   |   |   |   |  |  |
|-----------|---|--|----|-----|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 科目番号      | 授業科目名   | 学生の学習目標  | 学年 | 開講期 | 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。 | 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。 | 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 | 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 | 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 | 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を習得し、さらに問題解決能力を養う。 | 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 | 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。 |
| 45254     | MRI情報学  | 1. MRI検査時に必要な臨床的事項を理解する。<br>2. MRI検査時に必要な局所解剖を理解する。<br>3. MRI検査時のアーチファクトを理解する。 | 3  | Q2  | ○   |  |   | ○   |   |   | ◎  |  |
| 45255     | X線CT情報学   | 1. 一般的な疾病のX線CT像についての知識を取得する。<br>2. X線CTをある程度読影できるようにする。                        | 3  | Q1  | ◎   | ○  |   |   | △   |   |  | △  |